

### 第三室第一詩 私の半身

私があなたの顔を見るとき、

あなたが私の半身であることを知る

あなた方すべてを思い出すため、

細心の注意を払われて分離した半身であることを。

私<sup>からだ</sup>が自分の身体という衣服を脱ぐとき、

私があなたの半身であることを知る

突然のフライトによって、

記憶がぼんやりとした半身であることを。

自分たちの家を鮮明に思い出すために、

天使たちがそのハートに何を刻んだのかと

その瞳は想いをめぐらせる。

あなたの美を見るとき、

あなたが私の半身であることを知る

磨き上げられた鏡の中には決して映らない半身であることを。

鏡の中には映らないあなたは、

私たちの魂の切なる渴望を知っている。

あなたの瞳を覗き込む時、

私はあなたが私の半身であることを知る

それこそが私たちの真髄である

官能的な美の軌跡を辿る私の半身であることを。

私があなたの手を握る時、

それが私の半身であることを知る

家族として冬を越し、宴が準備されたとき

月と泉のもとに柔らかに囲まれる私の半身であることを。

あなた方の唇に触れたとき、

それが私の半身であることを知る

私たちの結合された呼吸という甘美な大釜の中で私たちを解き明かすため

神の血統から送られた私の半身であることを。

私があなたの泣く声を聴くとき

あなたの孤独が私の半身であることを知る

あまりにも内部深くに埋もれたがため、

私たちは外側で迷っている

問われる前に交わした約束のように

共に離れることを切望しながら。  
そして、私があなただの過去に目を向けるとき、  
あなたが私の半身であることを知る。  
朽ちようとしている細い桜の樹々にあなたは駆け寄る。  
その姿は宇宙全体から見えない。  
突然のフライトで、私たちは笑っていることに気がついた。  
私たちのハートにイニシヤルが刻まれるのを見つめながら。  
その桜から離れることを惜しんで。